



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2022～2023年度 RI会長 ジェニファー・ジョーンズ
RIテーマ イマジン ローター

クラブテーマ「楽しい例会 楽しいローター」

会長 小林 勝 幹事 杉山順一

第1508回 例会 2022.9. 9(金)曇

司会：原 兄多君
ローターソング「奉仕の理想」 指揮：鈴木俊也君

事務所 三島市泉町9-8 1F南
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

裾野RC会長 飯塚秀男君



皆さんこんにちは。今日は「せせらぎ三島RC」との合同例会ということで、久しぶりに賑やかな気分です。裾野RCもかつては30名以上会員がいた時期があり、そんなときの気持ちがよみがえりました。

やはり会員が多いと、ある種の高揚感があると思います。こんなことから会員増強の良さがあるのかも知れません。

さて、今日は暦で重陽の節句、1年五回ある節句の一つです。奇数月の奇数日ということで、縁起のいい日が重なるわけです。一部には良い日が重なると悪い日に転嫁しやすい、これを縁起の悪い日というそうですが(少数意見ですので)別名「菊の節句」「栗の節句」と言って、菊酒を飲んだり栗ご飯を食べたり、あるいは菊の花で厄払いをしたようです。

また、旧暦で9月9日は新暦では10月中旬ですので、収穫祭としての祝い日でもあった様子です。その面影が長崎の祭り「長崎くんち」の「くんち＝九日」として残っているそうです。

以上、世界中が大変な時期にちょっと恐縮だったんですが、少し気持ちを休めていただく意味で暦の話をしていただきました。

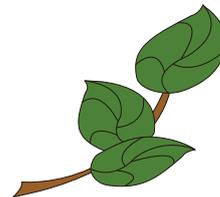
ようこそせせらぎ三島
ロータークラブへ

杉橋 聡さん
(中山君・藤川君のゲスト)

スマイルボックス

服部光弥君:9/9の今日は「重陽の節句」です。「菊の節句」とも呼ばれ、菊酒を飲んだり栗ご飯を食べたりして無病息災や長寿を願います。ちなみに私の誕生日です。母に感謝する日です。

原 兄多君:せせらぎ三島RC、SAAの原です。本日はありがとうございます。勉強させていただきます。



出 | 席 | 報 | 告 |

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	30/34	88.24%	34/34	100%
今回	24/31	77.00%	会員総数	34名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

石井(司)君、大庭君、篠木君、杉山君、土屋(和)君、
土屋(巧)君、藤川君
(*出席免除会員の欠席者 片野君、中村君、山本君)



米山梅吉記念館館内説明と運営委員の役割について



裾野ロータリークラブとの合同例会ではお世話になっております。本日の卓話もパスト会長小野さんの進行で米山梅吉記念館館内の説明DVDを拝聴し、内容を文章にしました。

米山記念館は1969年3月26日、財団法人として設立、その年の梅吉翁の命日である4月28日に六角形の記念館の

建築に着手し、同年9月開館しました。

1998年には、新館を建築し、これを機に組織も全国的規模に拡大しました。

2002年11月、RI会長の公式訪問以来記念館に対するロータリアンの意識も高まり、来館者も増加しております。2004年9月には、米山梅吉記念館創立35周年を迎え、記念特別事業として、記念誌「超我の米山梅吉の跫音」を発刊しました。また、2009年9月には創立40周年を迎え、記念特別事業として、旧記念館を青少年育成の目的をもって米山文庫として復活させました。2019年9月14日創立50周年を迎え“ロータリアンの心の故郷”“日本におけるロータリー学術拠点”となるべくさらなる精進を重ねております。

米山記念館は、全国のロータリアン及びその関係者を受け入れる日本唯一の施設であります。現在、米山奨学生、学友の研修、ロータリークラブの移動例会や梅吉翁を慕う皆様など全国からお起しいただき、年間150余クラブ、4000名以上のロータリアンが来館されます(現在はコロナ禍の関係で令和3年7月～令和4年6月30日108クラブ)。この施設を支援するため、米山梅吉記念館理事長委託の運営委員をもって組織的に支援活動を行っております。運営委員の皆さんと共に記念館の支援をしていきたいと思っております。

当委員会は、第2620地区第1グループ、第2グループの9クラブから9名の運営委員が選出されています。この委員会の活動は、記念館の春季例祭、創立記念祭(秋の例祭)、来館される方の案内、解説及び情報提供、その他運営委員会に部門別小委員会を設け、記念館と密接な連絡を取り、記念館の円滑な運営と発展のため支援協力する事にあります。

終わりに交通関係のお手伝いをしております関係上、交通規制に関する象徴的な信号機の話をしませう。

県内初の信号機は、昭和29年7月に沼津市大手町の交差点に設置されました。その後整備が進み昭和47年に1000基を超え平成5年には、5000基、令和3年末で約6900基まで整備され、道路になくならないものとなっています。増え続ける交通事故に対応するため、各種交通安全施設が整備されましたが、その中の一つが信号機です。交通事故が起きないように、皆さんで安全運転に努めましょう。

私たちは皆、違う道を歩んでロータリーの一員となりました。父親がロータリアンだったから入会した人もいます。例会に出席するようにと雇用主に頼まれたために入会した人もいます。米国最高裁判所の判決によって入会が可能になったから入会した人もいます。それでも、全員に共通する入会理由がひとつあります。招待されたから、です。

私たちの想像力を解きはなち、どんなことでも可能であることを教えてくれる招待状。私たち一人ひとりが、この招待状を誰かに贈ることができるのです。

地域社会全体を見渡し、将来のリーダーを見つけるのだと思うと心が畏敬の念にふるえます。そういうとき、自分と似ている人を誘おうと思ってしまいがちなものです。一見まったく違うように思える人びとも私たちの価値観を共有していて、同じ才能を発揮することができるのだと思いたるのには特別な才覚が必要ですから。

ロータリーは、組織全体の多様性、公平さ、インクルージョン(DEI)を推進するために、今こそ次の一步を踏み出すべきです。

皆が自分もロータリーの一員であると感じられるような体験を大切にするというのは、単に会員層を多様化するだけの話ではありません。例会やイベントを腹を割ったオープンな話し合いの場に、会員たちが自分は求められていると感じられて安心できる場所にしなければなりません。そのためには、入会の障壁を取り除き、インクルージョンのために扉を開かなくてはなりません。私たちの価値観は今後もロータリーの強みでありつづけます。それに、卓越性が求められるロータリーでは会員の高い基準を維持する必要があります。

全員がロータリー全体でDEIを推進することを心に誓い、尽力していると私は信じています。これはロータリーの最も深い伝統に根ざしており、これから数十年にわたってロータリーが活気にあふれた重要な団体でありつづける未来を保証してくれるものです。

数年前、ロータリー理事会は2023年までに女性会員の割合を30%にするという野心的な目標を設定しました。もうあと1年もありませんが、この目標を達成し、超えることができると私は信じています。

ロータリーはあらゆる大陸、文化、信条から指導者を擁立するべきです。若い世代や若い思想家に、これまで以上に大きな役割と責任を担ってもらうべきです。そして、長年活動してきた会員と同じく、新会員の声にも熱心に耳を傾け、敬意を払うべきです。

ヒューストン国際大会では、宇宙飛行士から宇宙探査の話の聞ききました。1960年代にアメリカ合衆国大統領ジョン・F・ケネディが「実現が容易だからではなく、困難なことだからこそ、月にも行くし他のことにも挑むのだ」と宣言し、夢を見ようと世界に呼びかけたことに思いを馳せました。

ロータリーがDEIに全面的にコミットし、野心的な会員目標を達成することは、月面着陸ほどあり得ないことだと思われるかもしれませんが、しかし、行動人が大きな目標に取り組むとき、全力で目標を実行することを私は知っているのです。